

いのき



ネズミと大黒さま

名譽館長 三隅 治雄

明けましておめでとうございます。ことし平成8年は子年に当たります。卷頭の写真はそれにちなんでのもので、当館所蔵の柴田是真（1807～91）の作品の一点、大黒天が米俵をかつぐ図の掛け軸です。これと対の軸がもう一幅あって、そこには恵比須が鯛を馬にのせて歩く姿がえがかっていますが、大黒天の方は、右肩のところにネズミがちょこんと見えるのが、おもしろい図柄です。大黒天はインドではこわい戦争の神、中国に来て食堂堂を守護する柔軟な神となり、日本に渡っては台所の神から田の神にまで変身し、出雲神話の大國主神が習合しました。ネズミとの縁は、『古事記』に、大国主神が野火に囲まれたとき、ネズミに地下の洞穴を教わって難のがれたとの説話に由来すると言われ、また旧暦11月を子の月と言い、この月の子の日に大黒天をまつる風習もありました。食物を喰い荒らすネズミが食物の神と仲良しとはおもしろい組合せですが、まめに動いて、子をたくさん生むネズミのパワーに、人は敬意を表したのでしょう。

文化財よもやま話

餅搗き唄

「ハアー めでためでたの若松様よ
ハアー 枝も栄えて葉も茂る…」
(上高田の餅搗き唄)

上高田では戦前頃まで餅搗きが行われていました。親戚、近隣の家々との共同作業としての餅搗きは、年の暮れの、また寒の日の、一大作業がありました。そしてこの場で餅搗き唄がうたわれる光景は、実に見慣れた、楽しいものであったのです。11月頃よりこの行事は始められ、家によっては7～8俵も搗いたといいます。餅は水につけて保存し、1年にわたっての食料として、朝食におやつにと用いられました。

餅搗きは、モチ米を蒸した後、まずそれをこねることから始まりますが、この時、ゆったりとした上記の唄がうたわれます。続いて「千本搗き」といって、数人で調子を合わせて交互に杵をつく時には、速いテンポの「数え唄」のような唄を伴奏とする所もあります。最後に、「納めの白」といった唄で、白、杵、作業に携わった人々の労をねぎらい終わりとなります。器用な人は、即興で唄をつくってしまうこともあったといいます。

人々の生活の中に、かつては常に唄がありました。仕事の席で唄をうたい、踊りをおどる生活があったのです。このような習慣の多くは失われてしましましたが、この度、12月3日に、上高田では餅搗き行事が復活しました。かれこれ50年ぶりのことです。今後の動向に注目していきましょう。



▲上高田餅搗き風景 12月上高田氷川神社にて

大地に眠る歴史

中野区弥生町、町名由来の壺

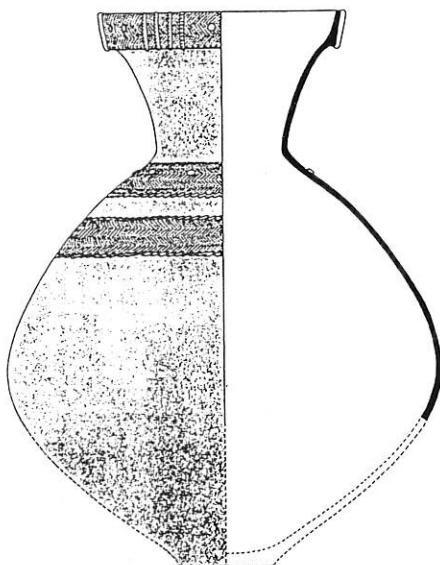
時々、聞かれることがあります。「中野区の弥生町は弥生土器の発祥の地ですか？」。正解は「ちがいます。」その弥生町は現在の文京区弥生町です。明治17年にそれまで見たこともない一個の土器が発見されました。その土器は発見された場所〔文京区本郷弥生町〕の地名をとって弥生式土器と名づけられたのです。

それでは、中野区弥生町はどうしてそう呼ばれるのでしょうか。残念ながら発祥の地とはいきませんが、文京区と同じく弥生土器にちなみます。

昭和42年の住居表示の変更の時に、昔から弥生土器が発見されていることからつけられた名称なのです。有名なのは、図に示しました、旧川島町から発見された壺です。この壺は『弥生式土器集成』という本に図が掲載され、広く学会に知られています。

胴の部分は径60センチ、口の径は30センチもある大きなもので、縄の文様が付けられ、全体に赤く彩色されていたことが知られます。

しかし、残念なことに弥生町の名の由来となつたこの壺が、今どこにあるのか、その所在は不明なのです。



▲中野区川島町出土の壺
(今はどこにあるのか？)

古文書アーカイブ

お願ひして掃除をすること

右の史料は、中野村の名主であった卯右衛門が、尾張藩屋敷の掃除を命じて欲しいと願い出たものです。史料中によると、「掃除のことについては、どうかくれぐれもお願ひ申し上げます」と言っています。

こうした大名屋敷などの掃除を願い出る史料は、いろいろ見ることができます。しかし単純に考えると、掃除をするということは、ある意味で自分の仕事を増やすことにつながります。では、何故あえて仕事を増やしてまで掃除のお願いをするのでしょうか。

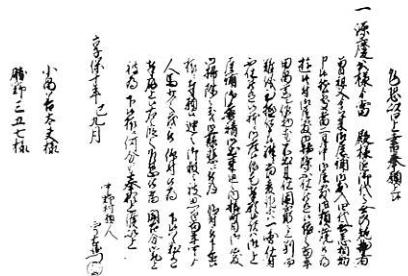
考えられる一つとしては、尾張藩の屋敷で掃除をするということで、周辺の人々に自慢するためであったと思われます。当時の尾張藩といえば、御三家の筆頭で、八代将軍吉宗と対抗したぐらい威勢がよかったことは有名です。その尾張藩の屋敷に出入していたということは、中野村名主卯右衛門の名前を世間に広める一つの方法であったと思われます。

新井白石とシドッティ

江戸時代中期の朱子学者、政治家であった新井白石は、実証的な近代思想家でもありました。当時、日本へのキリスト教の布教は、ヨーロッパ諸国が日本を侵略するための手段としておこなっているという見方が広く浸透していました。彼はキリスト教の布教をめざして日本に潜入を試みながら逮捕されたシドッティ (Johannes Baptista Sidotti) を尋問し、それが偏見であることを指摘しました。いま、新井白石の墓石は、中野区上高田一丁目、早稲田通りに面した高徳寺にあります。

シドッティは、イタリアのシチリア島パレルモ市の出身。教皇クレメンテ十一世の特命を受け、イタリアのジェノヴァを出港し、宝永5年 (1708) 屋久島に上陸しましたが、ただちに捕えられ、江戸に護送されました。そして現在の文京区小石川小日向一丁目にあったキリストン屋敷（牢獄）に囚人として終身監禁となりました。

將軍徳川家宣の特命を受けた新井白石は、数回にわたってシドッティを尋問し、その結果を「西



実は、もう一つ大きな理由がありました。それは、屋敷内の掃除によって得られる馬糞などが農業に重要な肥料となったわけです。史料中にも、「屋敷が火事で焼けて、掃除をしなくなつたので田畠が荒れ、作物のできが悪くなり困窮した」と述べられています。一見、掃除を行なうことと、作物のできが悪くなることは関係ないように思われます。しかし、掃除によって、農業に貴重な肥料を得ることができたわけです。

あえてお願ひして掃除をさせてもらう理由は、こうした背景がありました。屋敷の掃除をしてもらうかわりに肥料を得る。近郊の農村と都市が機能的に結び付いていた姿をうかがい知ることができます。

中野の出会い

洋紀聞」に記録しています。また、シドッティの人柄を忘がたく思うとさえ記し、キリスト教の「謀略の一事が、ゆめゆめあるまじき事と存ぜられ候」との結論に達しています。

その後シドッティは、獄中で牢獄の使用人長助夫婦をキリスト教に改宗させた廉で地下牢に幽閉され、まもなく獄死、裏庭に埋葬されました。

中野区大和町四丁目の蓮華寺の本堂の前に「山荘の碑」が立っています。この寺院が文京区から移転して来たときに運ばれてきました。文化十二年 (1815) 間宮士信という人が立てたのです。碑の表に「宝永中、ローマのバテレン与安および長助夫婦もまたこの牢に入る。みな長く繋がれて死す」との文意の文字が読み取れます。与安とはヨアンネス、すなわちシドッティのことにはかなりません。

文京区小日向で向かい合った新井白石とシドッティの二人は、いま中野区内、それも同じ早稲田通りで結ばれているのは奇遇といいい切れないものが感じられます。

事業報告

各種事業経過

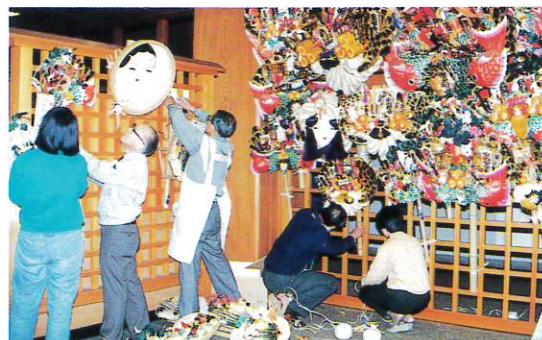
1995年10月～12月

事業名	内 容	期間
特別企画展	「江戸・東京百景今昔〈広重「名所江戸百景」を東京に見る〉」	10/1～11/18
企画展	「お正月ーはがきのたのしみ」展	12/14～1/13
ミニ展	「西の市と熊手展」	11/2～30
古文書講座	「入門コース」講師 大友一雄氏(国文学研究資料館国立史料館助教授) 白井哲哉氏(埼玉県立文書館学芸員) 伊藤康晴氏(横浜市歴史博物館勤務)	10/28～12/16
史跡めぐり	「上高田・寺町コース」 講師 角田茂氏(中央大学大学史編纂室)	12/2
文化財調査	鷺宮地区民俗調査	継続中
埋蔵文化財調査	片山遺跡 第二次発堀調査報告書刊行 御嶽遺跡 調査報告書刊行作業 中野三丁目民有地試堀調査 弥生一丁目民有地試堀調査 御嶽遺跡 第二次発堀調査	10/1 継続中 10/20 11/1 11/24～



▲特別企画展のコマ

▼「西の市と熊手展」の準備風景



寄贈資料一覧

1995年1月8日～4月20日
敬称略・受入順

資料名	点数	氏名
レコード盤	多数	植田 啓介
絵はがき他	多数	須藤奈津美 福家真津里
写真	1	北浜 清子
行灯・枕	2	塙 百子
氷けずり	1	奥田 詔紀
五月人形	一式	小野 昭明
農地証券・写真	3	露無 健治
背のう・水筒他	4	大沢 敏尚
模型 他	2	池上政之助
ひな人形	一式	井上美代子
ひな人形	一式	秋元喜久恵

◎貴重な資料をありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

入館状況

1995年9月～11月（延72日間）（人）

一般	社教団体	学校教育	合計
9,096	82	763	9,941

発行年月日 1996年1月1日

編集・発行 山崎記念
中野区立歴史民俗資料館
〒165 東京都中野区江古田4-3-4
☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119
(印刷物登録番号 7中教社第7号)